

水産生物分布調査（No.2 ハタハタに関する調査）

十三 邦昭

日 本 海

1. 稚 魚

平成元年5月8日朝方、鰺ヶ沢町中村川（河口から約500m上流までの間）において、シロウオ採捕用抄網でハタハタ稚魚が採集された。

37ヶ統のうち約20ヶ統に入網し、2日間で小型のバケツに5杯採捕した人もあるといわれ、全体では数万尾程度の採捕があったものと推定される。当日の沿岸水温は水試の地先では13.2度であった。

魚体は全長3.9～4.7cm、平均4.3cm、体長3.4～4.1cm、平均3.7cm、体重0.44～0.78g、平均0.6gであった。

過去においてこのような現象は見られたことがないと伝えられるが、今後シロウオ抄網に特に注目していかなければならない。

2. 成 魚

沖合では底曳網、沿岸では刺網、小型定置網に漁獲されるが、沖合では索餌群、沿岸では産卵接岸群が漁獲対象となっている。

昭和52年以降の底曳網によるハタハタ漁獲量は図1に示したとおりで平成元年は深浦地区では2.1トンでここ5～6年をやや上回った程度であったが、鰺ヶ沢地区では9.4トンで昭和52年以降の不漁年の中では52年に次いで多かった。時期的には例年同様11～12月に多く、11～12月だけで全漁獲量の90%程度を占めている。

魚体は11月体長13～20cm、モード14cm、12月11～22cm、モード17cmで昨年よりはやや小型であった。熟度指数（生殖腺重量／全重量×100）は11月雄では平均15.0（9.1～16.2）、雌では平均9.1（3.2～14.7）、12月雄では平均9.2（4.1～13.2）、雌では平均27.4（14.5～48.8）であった。

一方、沿岸での産卵接岸群は鰺ヶ沢地先では12月14日に初漁があり、昨年より6日遅く、不漁年の中でも水揚げのあった年の中では、54年、57年に次ぐ遅い初漁であった。このため、漁獲のピークも21日、22日にみられ例年より1週間遅れであった。

12月28日まで漁獲が見られたが、近年では57年に次ぐ遅い終漁であった。

沿岸の漁獲量は図2に示したとおりで、平成元年は4.1トンで、52年以降では低水準ながらも比較的多い年で昨年の約2倍であった。

魚体は体長12～23cm、モード17～18cmに認められた。

また、県南部の大間越、岩崎地区では聞き取りによると刺網が数隻操業して漁期間500～600尾漁獲した船もあったと伝えられるが、市場には水揚げが全く見られず昨年を下回った。

沿岸の操業隻数は鰺ヶ沢地区では小建網5ヶ統、刺網30隻で、小建網は昨年より2ヶ統少なか

った。

漁獲金額は沿岸では531万円で昨年351万円を180万円程上回った。

単価は雌雄込みで平均1,291円で昨年より526円安値であった。

また、底曳網による漁獲金額は鰯ヶ沢地区では1,780万円で単価はkg当り1,904円、深浦地区では336万円で単価1,590円であった。

太 平 洋

平成元年6月27日北緯40度52分・東経141度33分（高瀬川東方沖水深160～190m）海域で小型底曳網によりハタハタが12尾漁獲された。

体長13.2～18.7cmの範囲でモードは14cmであった。生殖巣は雄で1.7g未満、雌では1.1g未満ですべて未熟であった。

胃内容物は殆ど魚類でタラ類の稚魚も見られた。

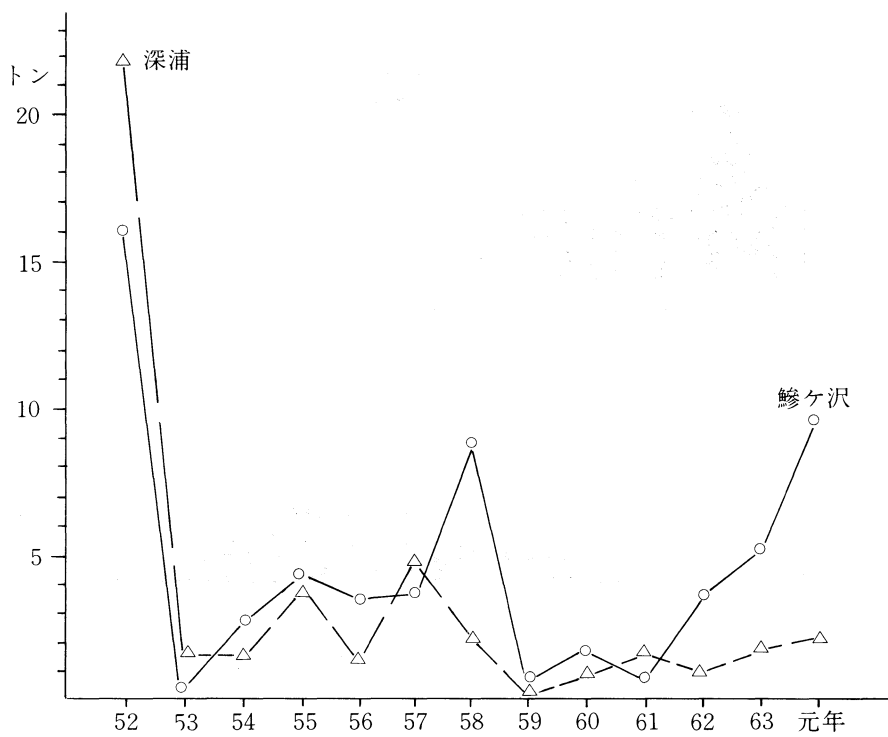


図1 沖合における漁獲量（底曳網）

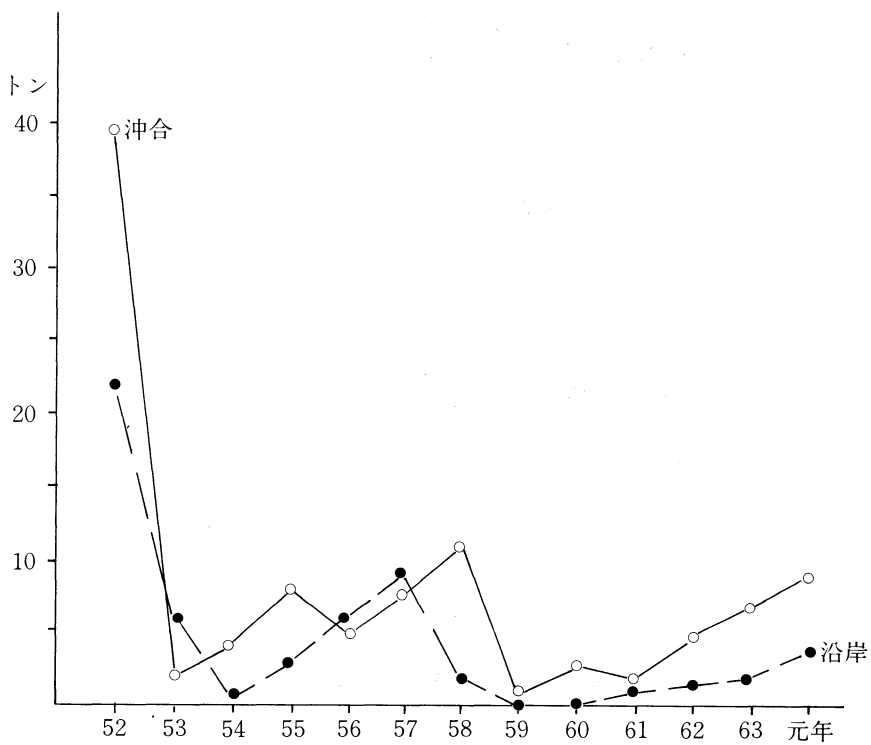


図2 沿岸・沖合漁獲量

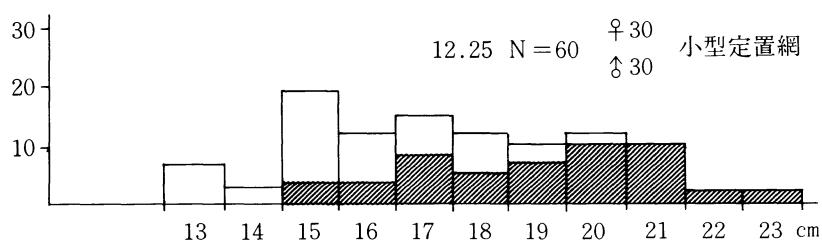
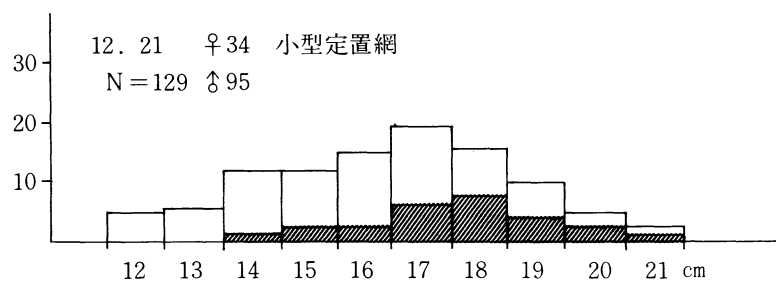
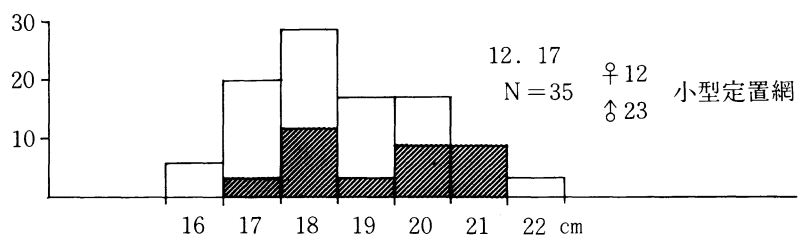
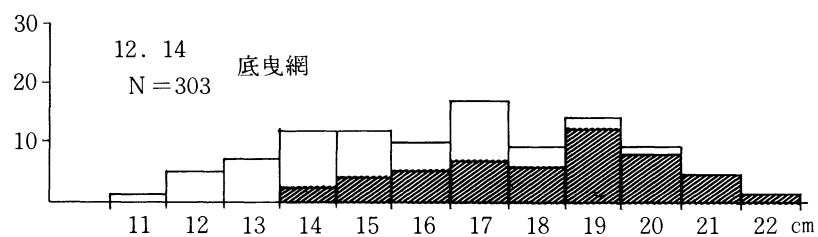
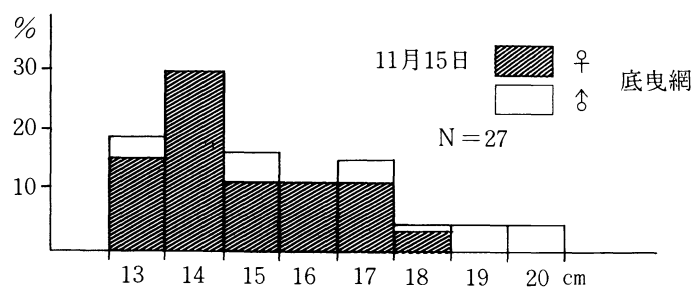


図3 ハタハタ体長組成